

令和5年度職員自己評価の集計結果

矢吹町ひかり保育園 R6.3.21

番号	評価内容	ポイント
32	子どもの個人記録に基づく情報をその子どもに関わる他の職員と共有している（個人記録の作成）。	94.4
35	一人ひとりの子どもの状態に応じた対応をしている（健康管理）。	94.4
33	登園時や保育中の子どもの体調の変化にすぐに気づき、すぐに対応できるよう努めている（健康管理）。	92.6
34	感染症が発生した際、マニュアルに基づき対応している（健康管理）。	92.6
37	子どもが心地よく過ごすことができるよう、採光や換気、湿度や温度に配慮している（保育環境）。	92.6
38	衛生面にも配慮し、子どもが安心できる環境作りを心がけている（保育環境）。	92.6
44	何事にも責任をもって行っている（保育・保護者対応等）。	92.6
2	自身の保育が、子どもの生涯の基礎を培う極めて大切な役割を担っていると認識して保育をしている（養護）。	90.7
13	読み聞かせの時間を大切にしている（言葉）。	90.7
27	子供のその日の様子を職員間で伝達し、「家庭からの連絡」等の内容を理解しながら確実に保護者に伝わるようにしている（延長保育）。	90.7
43	園長・副園長・主任・同僚との間で良好な関係を築いている（運営管理）。	90.7
20	離乳食提供介助について、個々の段階を考慮しながら丁寧に進めている（乳児保育）。	87.9
1	こども一人ひとりの人権と存在を尊重し、丁寧に対応している（養護）。	85.2
5	衣服の着脱に際して、子供の意欲を大切に、着脱しやすいような配慮をしている（健康）。	85.2
14	子供が話しやすい雰囲気作りを心掛けている（言葉）。	85.2
26	子供の不安な気持ちに寄り添い安心して過ごせるよう、保育にあたっている（延長保育）。	85.2
29	性差へ先入観による固定的な対応をしないよう配慮している（子ども人権）。	83.3
40	保護者との関わりを積極的に持てるよう意識したり、虐待について速やかに対応できるよう努めている（子育て支援）。	83.3
8	ルール（決まり）の大切さを伝える工夫をしている（人間関係）。	81.5
18	自由に表現できる環境作りを心がけている（表現）。	81.5
19	道具の正しい使い方を、1人ひとり丁寧に教えたり、見守ったりしている（表現）。	81.5
36	子どもが落ち着いて食事が楽しめるよう工夫したり、食に興味を持てるような配慮をしている（食事）。	81.5
21	オムツ交換をする際には、乳児の気持ちを考慮し、対応している（乳児保育）。	81.3
22	寝かせる際は、一人ひとりが安心できる環境作りを心がけている（乳児保育）。	81.3

23	乳児の発達段階を考慮し、個々の成長や各場面での適切な対応に努めている（乳児保育）。	81.3
24	一人ひとりを細かに把握し、丁寧に対応している（乳児保育）。	81.3
3	午睡時は一人ひとりが安心できる環境作りを心がけている（養護）。	79.6
25	長時間保育（延長）の為に、家庭的な雰囲気を作ることに配慮している（長時間保育）。	79.6
39	子どもが満足して遊べる環境の工夫をしている（保育環境）。	79.6
17	言葉・絵・音・造形等、子供が最も得意な方法で、見たもの・感じたものを表現することを大切にしている（表現）。	78.4
4	排泄に際して、子供が自ら進んでいけるような配慮や工夫をしている（健康）。	77.8
7	相手の気持ちが分かるような言葉かけや、援助を行っている。（人間関係）	77.8
15	子供の言葉にきちんと耳を傾けている（言葉）。	77.8
30	指導計画を作成する際、園の理念や保育課程等を基に立案し、個別の対応について配慮している（発達援助の作成）。	77.8
16	生活に必要な簡単な文字・記号等に、興味や関心を持てるよう配慮している（言葉）。	75.6
6	様々な活動に際して、子供が健康・安全に過ごせるような内容・環境を工夫・配慮している（健康）。	74.1
12	集団での過ごし方や役割について気付くことができるような工夫をしている（環境）。	74.1
31	指導計画を子供の発達の姿、興味、関心に基づいて見直し、次に活かせるようにしている（発達援助の作成）。	74.1
41	園の保育理念や基本方針を理解し、日々の保育活動に活かしている（運営管理）。	74.1
42	自らの保育実践を振り返り、改善や活性化、専門性の向上に努めている（運営管理）。	74.1
10	身近な自然に興味関心が持てるような工夫をしている（環境）。	72.2
9	いろいろな人との関わりが持てるよう工夫したり、保育に取り入れている（人間関係）。	70.4
28	子供への人権への配慮や、互いを尊重する心を育てるための具体的な関わりを保育にとりいれている（子ども人権）。	70.4
11	地域との交流が持てるよう自ら積極的に働きかけている（環境）。	52.4
考察	<p>自己評価項目のそれぞれについて、4段階評価の自己評価（A：できている B:ほぼできている C:あまりできていない D:ほとんどできていない）を、Aを3点、Bを2点、Cを1点、Dを0点として、保育士の平均点を算出し、100点満点に換算したポイントを付けた。</p> <p>90ポイントを超えているのは、青色の11項目である。「個人記録の共有」、「園児一人一人の健康状態に応じた対応」が特にポイントが高かった。日頃から保育士としての専門性を生かし、一人一人の園児に丁寧に対応しながら保育に当たっていることがうかがえる。</p> <p>逆にポイントが低かったのは、オレンジ色の9項目である。「他者との関わり」、「子ども同士互いに尊重する心を育てる取組」に課題が見られる。クラスの中の園児同士の関わりを豊かにさせるとともに、0歳児から5歳児が一堂に会する集会を子どもたちが人権を学ぶ場として生かしていきたい。また、「地域との交流への積極的な働きかけ」が弱いと感じている保育士が多い。矢吹町社会福祉協議会の運営する保育園として、矢吹町内の様々な方々と触れ合う機会を積極的に取り入れながら、保育にあたっていきたい。</p>	